



特別陳列

松平造酒助江戸在勤日記―武士の絵日記―

みきのすけ 翻刻集・出品目録



会場 神奈川県立歴史博物館 特別展示室第一室
会期 二〇二三年二月一八日(土)～四月九日(日)
期間中に場面替えを行います
前期 二月一八日(土)～三月二二日(日)
後期 三月一五日(水)～四月九日(日)



【翻刻集】 展示されている資料の注目箇所の翻刻を掲載しています。

1 松平造酒助江戸在勤日記 第十四冊 元治元年十一月一日

〔朱異筆〕〔異筆〕
〔十四〕〔十三〕此ノ後二在り

〔朱異筆〕
〔十一月六日弁藏下、廿二日着、廿四日届、書状ハ不参候〕

十一月朔日

2 松平造酒助江戸在勤日記 第三十九冊 慶応元年閏五月

同七日

雨天、弓矢多来り、昨夜深川へ廻り、仮宅女郎之張候処見とてキモケいたし故、日記を付下候様ニと申付ル（後略）

4 編年私記 五（嘉永二年）

○八月廿五日 松平武右衛門・坂部専大夫・辻宣右衛門・和田東藏・池田吉之助、右は 大殿様思召を以て 御代々様 御旧記御取調二付、右掛り被仰付候、但於江戸右同様左之面々被仰付候由、杉山弓之助・黒崎与助・大野市郎兵衛・関口正右衛門

5 松平造酒助書簡（安政二年）八月九日

（前略） 八月九日

松平武右衛門文書70

松平造酒助

御父上様

尚々、早速被遊御出勤、日々御出仕、御台場へも被為入、御覽可被為遊、此方噂と違候物ニ御座候や、又沙汰之様御座候や、御陣屋無間御請取ニも可相成候様半蔵より申越候、嘸御請取相済候半と奉存候、先以て御調御用ハ御六ヶ敷御心配ニ思召と奉存居候、末々迄先例此通形ニ相成候事故誠御大役御心中之程奉察上候、此間式右衛門御留守為見舞参候て段々咄しより、我等登之事ハ如何可成や、不被仰付内ハ登物ニ不致と申事何程尤存候、御陣屋請取之上ハ無相違登可申と存候得共、兎角十露盤之方ハ強キ為か御足輕扨と甚々ヤカマ敷（後略）

6 松平造酒助書簡（安政二年）十月十日

松平武右衛門文書88

（前略）暮頃早追着之由、無間右近殿より半蔵書状届呉候間、否や牛兵衛叔高らかに読被上候処、無御別条と聞や否や、恐悦ノと高聲上ヶ候心地譬方無御座候、嬉しとハ何とハ難申尽候、歎最中三日立御飛脚着、御書達一同大勢ニ相成、目出し嬉敷やと難有奉拝見候処、前代未聞之大変、不被遊御怪我等も、危し御出被為成、早速御出仕被遊伺御機嫌候由、重畳無此上御嘉運目出度ノ、恐悦此事ニ奉存候、一同安心気草臥仕候、誠ニノ、恐敷御浮目ニ被遊御逢、御心中之程入恐斗奉存候、聞程之事肝消、身之毛も立候斗ニ御座候、先以兩 殿様・上々様御機嫌能、三御屋敷無御別条候段、御運御目出度事御同意奉恐悦候、返々も恐悦ニ存候（後略）

7 松平三郎兵衛書簡（安政二年）九月十三日

松平武右衛門文書10

（前欠）被為入候趣重々恐悦至極奉存候、此方皆様御機嫌克、第一造酒殿様子至此節追々宜敷、此頃とはかく野行出のミ被致、最早此之分二てつらノと全快ニも趣可申候、至て能模様相成候、嘸御案事も可被為遊と心察仕居候、乍然弥快御座候間、此上は不必御案事被成候事も有間敷と重畳目出度御事、おの子等も安心仕候、第一之御安堵之儀ニ御座候、其御地時候不同尔今暑氣も有之、御氣味悪敷思召候旨、折角御自愛被為遊候様奉存候（後略）

8 松平造酒助書簡（安政三年）四月二日

松平武右衛門文書108

（前略）扱又私不快追々快、此節日々様ニ野行仕候、廿一日後ハ廿三日柳引通り出無勝負、廿五日ニは下川山へ明張いたして十六羽取、廿八日ハ又々明張へ出二羽、下川前通り朝より廻張仕候、漸々四十九羽取、五十二不相成甚残念之至ニ存候、前日源吾参候間、源吾百羽、私ハ五十取候ハ、両方勝負集給候積いたし処、源吾ハ百壹羽、私ハ四十九羽取、振舞ハ出来兼甚残念ニ存候、乍去私勝負ハ当年一番通り積二て鼻高クいたし居候、昨日も出候へとも大体渡り候物やとんと不居、漸十羽取候、御待受二何ニも無之、塩鳥御好物ニ御座候間、五十羽塩付仕候、皆鵜油物御座候、

嘸甘ク可有御座と存候（後略）

9 編年私記 六（文久三年）

○十二月廿五日 松平武右衛門殿、老年ニ付御組頭御役御免被成下一直ニ隠居、家督高千四百石無御相違嫡子松平造酒助へ被下置、上座御番頭服部純藏上席被仰付候、武右衛門儀老年迄無滞相勤候付、御時服一銀子三枚被下置、且又数年掛り御用共厚心を尽格別精勤ニ付、別段之思召を以白鞘御脇差被下置候

編年私記 六（文久四年）

○正月廿二日 松平造酒助、御組頭御役被仰付候

12 松平造酒助江戸在勤日記 第一冊 元治元年八月十九日

（前略）東都繁花、庄内ニて考候より格別之事ニも無之、神田橋ニ至、兵部殿参、御用状さし出、清兵衛へ参り不快尋、権十郎殿へ案否、政右衛門同、男四郎二逢、万端礼謝し、織人色々世話いたし呉候様申ニ付、挨拶旁尋参り、御殿へ出、頭取ニ逢御機嫌伺、御預ケ之品相渡候処、御目通有之趣、控居候処甚大夫先達ニて表御居間之ニノ間御座有之候処直ニ入、御機嫌伺候処、御立被遊、前御座付、大殿様・大前様御機嫌御伺被遊候間、御機嫌能趣申上候処、元御座付、道中無滞大儀との御意有難仕合趣申上引取候、直柳原参、藤彌二逢、夫より下谷御長屋着、一同・馬とも無事ニ着揃、千祝万喜目出度し（後略）

29 酒井兵部達書（元治元年）九月二日 松平武右衛門文書 209

（貼紙）

「子九月二日兵部殿被達候書付也」

松平造酒助

今度 御出馬之節一組召連、一ノ手へ御供被 仰付候

30 松平造酒助江戸在勤日記 第六冊 元治元年九月廿四日

（前略）御進発御供御免之由、大氣弛ミあんといたし、大草臥（後略）

32 松平造酒助江戸在勤日記 第十九冊 元治元年十一月二十七日

（前略）日々取込ハ先日申上候急速御人数出候節調取扱被仰付、政右衛門大体出来、□し下候得共、此度二十人為御登御人数と此方二居候五十人余と御備組と三ツ二分、平日は非常詰・市中廻・忍御供、急速之節大炮組ニて出候事、尤西洋大炮ホート為御打、其稽古立方、且是迄寄合組とて頭も無之処、松宮源大夫と榊原十兵衛へ在勤中御預ケ、私一人ニて行届兼候趣色々申述、御小性頭之内壺人被仰付候様ニと申述候得共馬之耳風（後略）

39 松平造酒助書簡（元治二年）三月九日

松平武右衛門文書 213

一、竹内御組二十五人、内世話役八人

但御人数出候節一ノ手

一、松平御組二十五人、内世話役六人

但同断之節二ノ手并笹元頭之印中高同様之事

一、一ノ手寄合組二十四人、内世話役五人

但源大夫頭、一ノ手タシキ笹元中高組之印

一、二ノ手寄合組二十二二人、内世話役五人

但十兵衛頭、タシキ笹元中高同断

右之ニクミ急速御人数出候節二十九人高宛に相成、ホウト炮四挺、百

目車台炮五六挺宛御預、平日大炮稽古、月二三度宛

一、三ノ手御旗本寄合組二十人、内世話役四人

但御人数出候節御小性頭付候、笹元等前同断

平日勤方

御家中組五組四番立、一組浮、廻り方斗勤休也、廿四日宛ニて一組宛代りノ浮候

非常詰
宅非「常」持
忍御供
十一日
廻り
大非番

松平御組
一寄合組
二寄合組
御旗本寄合組

十二日
非常詰
宅非常持
忍御供
廻り
大非番

御旗本寄合組
松平御組
一寄合組
二寄合組

十三日
非常詰
宅非常持
忍御供
廻り
大非番

二寄合組
御旗本寄合組
松平御組
一寄合組

十四日
非常詰
宅非常持
忍御供
廻り
大非番

一寄合組
二寄合組
御旗本寄合組
松平御組

右は四日之内一日ならて休無之候、誠繁勤なる者二御座候、口説者も可有之候得共、若口説者抔と聞候へハ大不首尾故、忝人も表口説無之候

廿四日宛にて代ル

右は廻り斗、廿四日過候へハ御組休、立廻り斗二入、廿四日過候へハ松平御組本番入、一寄合一組廻り二入

廻り場

品川

板橋

千住 小塚
吉原

深川

新宿

右之所へ一日に朝二組、昼二組、夜三組ツ、廻候、朝廻りは五ツ頃より七ツ頃迄、昼廻りハ九ツ過より夜五ツ頃迄、夜廻りハ暮頃より九ツ過迄

廻り組分

一、御家中

二組

一、御手廻り 一組

一、御徒 二十人 一組

一、御物頭 五組

一、新徴組 二組

都合六組

但二十五人ツ、

一、大砲組 三組

但二十一人ツ、

右之通

一、廻り之節一端御上屋敷詰、

割籠取受、竹長持入

（大根四切り、梅干二ツ）

一、世話役鑑札壱「枚」宛持

右之通内と外と有之、不法之

者切捨不苦候事

一、八十石与内貫ひ、上下二

人にて二人扶持受取、外二人分を雑用二いたし、辛抱成者刀抔と求、又ハ不足いたし色々也、いつれも辛抱いたし居候風ニ御座候、馬鹿者をハ御常用勤方二入、下候事ハ容易ニ不致候、大身子供ハ嘸々と被推候様ニ御座候

一、非常詰当日朝五ツ時交代、食事三度分用意之事、諸芸稽古し泊り、注進次第飛出候事、翌朝交代、御出有之節ハ直ニ忍御供、宅非常持にて他行一

切不相成、三御屋敷、別段柳原・下谷御屋敷へ注進之節ハ宅非常より参、尤非常詰より注進ニ付参候節ハ宅非常番へ申越、非常詰代りニ駆付候事

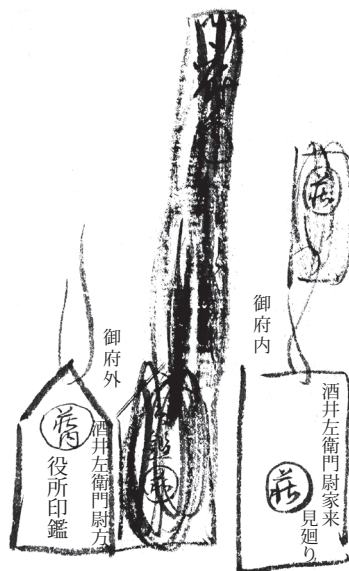
一、廻りへ朝ハ暮前迄、昼之節屋迄他行勝手、暮より廻り朝より七ツ頃迄他行勝手次第

一、大非番にて稽古立居候組有之、無之組有之、勝手次第也、先ツハ四日之内漸非番故多分他行也

大概右之体ニ御座候

一、袴ハ夏冬無之一枚にて可然候事、尤是迄馬乗袴之内檔高二仕立置持参之方と奉存候、尤此方二ても袴可申候得共、悪敷分無之てはたまり不申候

（後略）



此春模様凡猶又取調申上候様被仰下、奉畏候得共、只今よりはと心付も無御座候得共、大凡左ニ申上候、委細は登候上ニ伝言可仕候

一、心得方毎度被達候認 一通

一、御番頭より伺書 壹通

一、御旗本寄合組世話役より伺書 壹通 へ此組は弓矢多組と交代ニ相成ニ付同勤事へ

一、御旗本寄合組御人数御差出し市中廻り等之節達面 壹通り

一、仏蘭西より公辺へ差出候書付其仮認、御老中より権十郎殿へ被渡候、其

外廻り方一同より行達候節心得方伺候て、権十郎殿御老中へ伺ニ付、応接

ニ相成候て出候書付 壹通

一、出火之節達面 壹冊 取調私掛り漸出来、未一同へ不達候得共下書出来

二付差上候

一、急速御人数出候節、惣て取調取掛居候得共尔今出来兼候、不容易義にて甚

差泥居候、出来候上可掛御目候、其取調模様は、米粮焚出し方、ケ様なれ

ハ弁理、其場所へ送方才料付不申ては締ハ付不申、蠟燭何丁位を二人持箱

か何カ二入、才料付、何組へ何位、誠此造酒助大弱、隼人親じと相掛りニ

相成候間、先ッ格別面倒ニも有之間敷と存居候

一、廻り之節出立は天氣次第、塗笠等勝手次第、下駄・草履・草鞋・ミノ等相用候、

得物心次第、木太刀・手鎗・搦鎗又は鉄扇、面々心次第、夜中ハ笹元手丸

之内組々相印付候間、弓矢多分ハ大体為拵、紋書候迄為致置候様半蔵へ申

付置候、蠟燭は上り渡り、一端御上屋敷へ詰、相廻り候、割籠竹長持二入、

雨具同様、持人上より出候、新宿又は品川定宿有之、座敷ニ上り休足、茶・

火鉢、夜中は蠟燭出し、誠ニ大世話なる者ニ御座候、宮仕人六七人宛も出、

帳面さし出、何組人数幾人と認、帰候て御長屋々々へ直ニ戻り候

一、非常詰は朝五ツ頃朝飯給、御上屋敷へ出、交代、二度飯銘々用意ひ、香

物持行候事六ヶ敷事故飯斗持参、御地走ハ間戸前ニ香物又は煮メ売日々参

候故求候由、夜具ハ。シラミ。ノミ、蚊帳ハ皆穴タラケ。夜具ハ小便等ニ

て煮染ニ相成居候由、垢ハ剥候程付、綿出、誠ニムサキ事難申尽候由、御

組之内自分夜具持行者有之ニ付一同大笑、慙々不首尾ニ相成居候、人々目

引鼻引笑居候体ニ御座候、便所ニヶ所、入口前よりも不調法千万御座候、

非常詰繼大稽古所有之、昼は行義ノ、ニて致稽古候、着込二十五、搦鎗五

本備ニ相成居候、着込ハクサリ約ニ立不申候、炭・油等ハ上りより渡り申候て小使壹人出居候、泊も御座候、朝引取、空腹ニ相成、甘物店前通り候

故若衆皆々寄、汁粉^{アン餅}又ハ薩摩芋・おてつ・ボタ飯食し帰候

一、忍御供は御出度々三十人宛御供仕候、宅非常持ニて御供、非常詰より引取、

直ニ二十人出、廻り斗勤候組より十人、廻り当日之節ハ御手廻りより十人

出候事、弁当ハ御供方同様御地走ニて被下候、御溜り格ニ被為成候より繁々

御出、折々御用日ニて御登城御勤御世話敷物ニ御座候、誠御幼君之御役人

と一同御噂仕居候、急御登城之節ハ非常詰より御供、宅非常持早速為知申

越次第代相詰候事

一、乱妨者又は酒狂・浪人体召捕方仕方心得、町奉行所出候事、彼是数ヶ条有之、

明細難申上、巨細弓矢多登候上ニ伝言可仕候

一、登候一心得ハ、目の堪忍、耳の堪忍等々辛抱之第一ニ御座候

一、メカシ者は一同二目を被付候、笑者ニ相成候、余り茶步行過候ては札付

ニ相成候、芝居行等^マ杯とハ一切無用之事、万一行者杯と有之候ハ、一組之

内ニて大不首尾ニ為成候

右之通ニ心付候所申上候、登候上ニ委曲伝達可仕候

四月六日

松平造酒助

43 松平造酒助江戸在勤日記 第十冊 元治元年十月十七日

（前略）

一、酒井吉彌 左足膝下横疵壹ヶ所壹寸斗、式針縫

一、小竹弁蔵 額豎疵一ヶ処式寸位、四針縫

一、長坂九郎治 額より眼下迄斜ニ二寸五六分位、八針縫、右手指三本小疵

付

一、野沢寿三郎 額上壹ヶ所二寸五六分位、額上疵四針縫、右手豎疵五寸斗、

右手疵十一針縫

一、村上善作 額上壹ヶ所三寸位、七針縫

一、北楯金之助 額上一ヶ所、頭蓋骨ソゲトレ、疵長五寸斗、左腕四寸斗、

同手甲肉モケ取候、十七針縫（後略）

46 松平造酒助書簡（元治元年）十二月四日

松平武右衛門文書 173

（前略）私儀も至て丈夫ニて隔日御殿へ出仕、此節一同へ西洋大筒為打候事ニ

いたし候処、容易不成取調相成、大混雜大取込、御長屋へ居候節一段繁用（中略）政右衛門掛候処ハ書役も出来候得共、深く調ニ掛候ては大平ハ強く、何とも六ヶ敷、日々心痛いたし居、道も追々付、是も 上之為故と存掛候得共、馬鹿者被思被下候も難斗候得共、其節休足ニ相成、別て大慶と思、掛居候故、少も何二も懸念は無之、唯思慮分別無之ハ閉口歎息不少候、竹内ハ遊軍とも可申や、隙二は不絶他行、悪か善か色々風聞御座候てけんのん二御座候、私共より仕合せ之生と可申、人々笑われ候事も何とも不思議の助二は困事ニ御座候、扱野州より走り候浮浪人、伊奈野右衛門・行運齋大將にて一千位之人数にて、大道宿々二は泊、人馬継立無懈怠通行、関々ハ申二不及、甲州二入、夫より段々と無滞御上京と申風聞のみにて、駈といたし事とんと不分候、大將軍有之名斗、苦々敷世之中ニ御座候（後略）

47 松平造酒助江戸在勤日記 第十八冊 元治元年十二月十二日

（前略）且此度野州浮浪人とも美濃迄へ何の障も無之、妻子連、大砲兵糧迄持国々通行いたし、適々固人数出候とても戦勢老人も無之、辻堅同様道開通し、宿々申二不及、無滞事ハ浪人ノとて一同恐、尤駄賃等過分ニ遣候由、信州にて誰殿御勢と夜戦ニ及候節ハ防方ニは荻野流種ヶ嶋之鉄砲火縄打故消候や、又は縄ホサケ、闇夜ニ火縄之火見当ニ被打、浪人方ハ西洋之トントロ管^{（雷管）}にて打候事故消と申事二も無之、火も不見、信州大敗軍と相成候由、西洋流二無之ハ不濟世之中と相成候故十蔵殿へ委細申述、第一男子二三男之組分いたし、来春不残交代、西洋炮術を御国にて益相開候調書差出候様呉々申含（後略）

49 松平造酒助書簡（元治元年）十二月廿九日 松平武右衛門文書37

（前略）此節ミニケール筒として筒尺三尺二寸より二尺五寸位形にて、玉目四匁八ふん位、筒之内ニ筋付、玉形  シーヒ^{（椎）}ノ実ノ如、堅物通候事丸玉不及所ニ、可相成ハ右之ミニケール筒丸子へ二挺揃ニ申付、家重宝ニ仕度、二挺にて十八両位ニ出来候、御備御家中都合三十人位、右之鉄炮一挺十両之積にて十年賦申立候、三百両位故尔今不被仰付候、野州辺之軍ヲ聞居候へは是迄の火縄打にて大敗を取候由ニ付、いつれもそら出陣と申候へハ背負走り、一二丁位之処ハミニケール、手詰ニ相成候節ハ兼て心掛槍釧と、組立ヲ堅仕候積、庄内と相違の心持御察可被成下候（後略）

52 松平造酒助江戸在勤日記 第四十四冊 慶応元年六月二十一日

（前略）船艀ミニケール横濱取寄候て来り、権十郎殿へ三内・十兵衛杯と参候て開、長ハ十二両三分二朱ツ、短ハ十二両二分二朱ツ、追々人々参り配分いたし

一短	一挺	酒井兵部
一短	一挺	松平権十郎
一短	一挺	関甚兵衛
一短	一挺	丹羽庄右衛門
一長	二挺	松平造酒助
一短	三挺	神原隼人
一短	一挺	野沢重内
一長	五挺	中村三内
一短	一挺	犬塚泉土
一短	一挺	安倍藤蔵
一短	一挺	朝比奈長十郎
一短	一挺	安倍藤蔵
一短	一挺	中根伊三郎
一短	一挺	鮎半輔
一短	一挺	同
一短	一挺	相良文八郎
一短	一挺	片岡半兵衛
一短	一挺	石原勉
一短	一挺	伴彌太郎
一短	一挺	中世古仲蔵
一短	一挺	岡田豹蔵

（後略）

59 松平造酒助江戸在勤日記 第十三冊 元治元年十一月九日

（前略）御殿へ頼と不被出、他行日々いたし由嘶いたし処きモケいたし二付、西御物見ニ引移候事二いたし候ハ、御殿一足故大違ひ出可申、且御家老衆・御小性頭之前在之、御殿ニ断他行不相成、しちやう攻ニ兵部殿へ是非とも御用不便利ニ付近々沙汰へ御長屋明次第事也次第引移候様致被呉候様ニと頼置候処、早速主馬へ被申由（後略）

60 松平造酒助江戸在勤日記 第二十一冊 元治二年一月六日

（前略）尚又隼人ニ相談、六度他行外不相成候様ニと権十郎殿とも斗ひ候得共、尔今其沙汰も無之、却て下候方諸士之御締も付可申候得共、唯力トナク下と相成候ては兎角私より後より登候姿故、私御組彼是申聞候事も有之候得共、大笑いたし帰候（後略）

61 編年私記 六（慶応元年）

○閏五月十三日 竹内兵衛殿御叱、主馬殿の改名也、病氣願にて閏五月上旬庄内へ下着被致候所、同十三日思召被為在、隠居、御役御免、永蟄居被仰付、嫡子右膳へ家督千百石被下置候、無御相違之文字なし

77 松平造酒助書簡（元治二年）三月十二日

（前略）此方は桜真盛り、花見之為日々往来引も不切、私も昨日昼より袴を着、

御組誘引、其外御備組誘引、都合三十人斗にて出掛、上野廣小路より一杯之人エトノノノ、社内二入候処正面左右之桜、落花は人目驚し、七八ツより十七八歳女子供等メボツ・肌子アカネ・袖緋縮緬・腰巻いづれも緋縮緬、数千人、旗本家内は矢張庄内風之よふにて晴き^{〔晴着〕}に白ムク之^{〔ママ〕}二ニ上着重タルヲ見ル、御殿女中も数十人見ル、敷物之上にて酒興男女数万、ニヤノノノエトノノノ、造酒助肝天外飛、忙然^{〔忙〕}として、舞躍・落花のみ見、当年は市中穂二相成候為、五年此方無之賑々敷と申尊二御座候、夫より向寫・東橋渡り行、桜盛り其往来如蟻、御組衆も人々五合入之樽整、又はふくへ携、相互ニ往来者と酒為吞、吞セラレ、十七八女ヲ見れハヌカサシ^{〔逃〕}為吞、躍ナカラ往来体、都之春ハ庄内杯と違物にて見候事もならぬ、唯肝飛し、暑氣難絶惣身汗、行々て木母寺二至、茶屋を透し見候へハ大入、席七・百度大肌脱二相成、ケン最中也、御組衆も其内二入、我ハ蔭二廻り候処田畑有之処故一フク吞、数百丁唯々ニヤノノノ、夫より帰、席之為見物有之ニ付小屋二入見画し、如図候得共目小振にて尾ノ短キ物也、振ラノと酒醉往来を慰、誠ニ茹ラレシ様二相成、暮前漸歸りぬ^{〔後略〕}

78 松平造酒助江戸在勤日記 第八冊 元治元年十月五日

〔前略〕此方地走極よく鯛、其外香物一ツ之節も有之、先ツ二度位汁有之、勝兵衛日々鱸食尤よふ二御座候、私は可相成儉約いたし、折ふじ鱸給候^{〔後略〕}

81 松平造酒助江戸在勤日記 第十二冊 元治元年十月二十七日

〔前略〕七ツ前より隼人へ参ル、吉彌も来ル、膳出ル、さし身・土鰯汁・長皿へモンジロ小串・カマボコ・猩々芋大根・魚身・大蓋物鳥余油在過・時鮓、大食いたし帰^{〔後略〕}

91 松平造酒助書簡^{〔慶応元年〕} 九月七日

松平武右衛門文書19

〔前略〕扱我等義道中無滞、日割通廿七日万事都合能着、大慶いたし候^{〔後略〕}

92 編年私記 六^{〔慶応元年〕}

○十一月十九日^{〔中略〕} 松平造酒助殿、御家中御武器取扱掛

97 酒井伴四郎日記 万延元年^{〔一八六〇〕} 九月二十六日

廿六日、晴天、昼頃より叔父様・五郎右衛門・予三人連にて小石川伝津院へ参詣いたし、駒込白山権現へ参詣、又吉性寺見物いたし、大国師方にて出世大黒を受、夫より染井向之茶やにて漬大根を一切喰、爰ニ誠細長く大根を切り、軒へ又は木之枝杯ニ懸ケ有之候、長サ壱間斗も有、又半間程之も有之候、白髪大根と言由、夫より飛鳥山へ行、腰かけ茶屋にて菓子喰、茶を吞、夫より王子権現へ参詣いたし、此所扇屋と申誠大な料理茶屋有之、此茶屋ニ異人ヲロシヤ○アメリカ○フランス○イギリス四ヶ国之人物吞喰いたし居、大ニ賑フ、其跡へ這入り候処、誠きれいな小座敷沢山、庭杯之風雅成事難尽筆紙候、大魚之指身、あしらいに黄菊・大根おろし・胡瓜・わさび、又都芋ト蛸之味煮めし・魚之味噌汁・酒三合吞、何歟きれいに大ニ味し、帰りニ染井・すがも之植木へ這入、誠ニ風雅成事、扇屋より倍ス、植屋不知数候、扱染井ニ泉和守下屋敷、誠目を驚し候、夫市谷にてすし喰、直助ニもすしニツ土産二買、夫より爰にて風呂へ入、五ツ半時帰り、茶を涌し鮭一切焼、五郎右衛門ニ飯喰し皆も喰休ミ候、扱今日は面白く、道々哥唄歸り候

98 東役飛翰 元治元年^{〔一八六四〕} 卷十一

〔前略〕私御長屋より北は故郷の方故望ても詮無キ故ニ、窓ふたにて何方も見へ不申様ニ被致たり、南は御殿御広式は無くなりたる故ニ表御殿之御二階真直ニ相見、又遠く見ゆるは土手之柳、近く見ては景色も宜敷事ならぬニ、遠くより望みては中々能景色、富士も見へそうニして御長屋の屋根にて見へ不申、些と右手ニ当る敷と存候、二階も静にて宜敷候得共、只々烟ニは閉口、元は誰か住居ニや^{〔後略〕}

『松平造酒助江戸在勤日記』及び「松平武右衛門文書 造酒助書簡」に関しては、JSSC 科研費 JP18K00951 科学研究費成果報告書『幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究』(研究代表者:根本佐智子、二〇二二年)に全文掲載しています。

報告書は当館 HP で PDF 公開しています。 <https://ch.kanagawa-museum.jp/publications/lits>

出品目録

期間中に場面替えを行います 前期

NO.	資料名称	年代	所蔵	資料点数	
				前期	後期
1	日記第 14 冊ほか	元治元年 (1864) 11 月 1 日	神奈川県立歴史博物館	8	8
2	日記第 39 冊	慶応元年 (1865) 閏 5 月 7 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
3	丙申堂薬医門			バ	バ
4	編年私記 五	嘉永 2 年 (1849) 8 月 25 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
5	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 70	(安政 2 年 (1855)) 8 月 9 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
6	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 88	(安政 2 年 (1855)) 10 月 10 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
7	松平三郎兵衛書簡 松平武右衛門文書 10	(安政 2 年 (1855)) 9 月 13 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
8	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 108	(安政 3 年 (1856)) 4 月 2 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
9	編年私記 六	文久 3 年 (1863) 12 月 25 日 ・文久 4 年正月 22 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
10	日記第 1 冊	元治元年 (1864) 8 月 14 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
11	日記第 1 冊	元治元年 (1864) 8 月 17 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
12	日記第 1 冊	元治元年 (1864) 8 月 19 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
13	日記第 6 冊	元治元年 (1864) 9 月晦日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
14	日記第 4 冊	元治元年 (1864) 9 月 14 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
15	日記第 5 冊	元治元年 (1864) 9 月 21 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
16	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 202	(元治元年 (1864)) 11 月 15 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
17	浅草向柳原屋敷絵図	嘉永 2 年 (1849) 4 月吉日	鶴岡市郷土資料館	1	1
18	日記第 43 冊	慶応元年 (1865) 6 月 8 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
19	日記第 26 冊	元治 2 年 (1865) 2 月 23 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
20	日記第 41 冊	慶応元年 (1865) 6 月 5 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
21	日記第 4 冊	元治元年 (1864) 9 月 14 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
22	日記第 17 冊	元治元年 (1864) 12 月 8 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
23	日記第 3 冊	元治元年 (1864) 9 月 5 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
24	日記第 16 冊	元治元年 (1864) 11 月 19 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
25	日記第 23 冊	元治 2 年 (1865) 正月 19 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
26	日記第 44 冊	慶応元年 (1865) 6 月 16 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
27	日記第 13 冊	元治元年 (1864) 11 月 7 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
28	日記第 33 冊	慶応元年 (1865) 4 月 17 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
29	酒井兵部達書 松平 武右衛門文書 209	(元治元年 (1864)) 9 月 2 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
30	日記第 6 冊	元治元年 (1864) 9 月 24 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
31	日記第 9 冊	元治元年 (1864) 10 月 9 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
32	日記第 19 冊	元治元年 (1864) 11 月 27 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
33	日記第 19 冊	元治元年 (1864) 11 月 27 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
34	日記第 22 冊	元治 2 年 (1865) 正月 11 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
35	日記第 23 冊	元治 2 年 (1865) 正月 24 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
36	日記第 39 冊	慶応元年 (1865) 閏 5 月 5 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
37	日記第 42 冊	慶応元年 (1865) 閏 5 月 25 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
38	日記第 21 冊	元治 2 年 (1865) 正月 1 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
39	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 213	(元治 2 年 (1865)) 3 月 9 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
40	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 195	(元治 2 年 (1865)) 4 月 6 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
41	日記第 21 冊	元治 2 年 (1865) 正月	神奈川県立歴史博物館	1	バ
42	日記第 21 冊	元治 2 年 (1865) 正月	神奈川県立歴史博物館	バ	1
43	日記第 10 冊	元治元年 (1864) 10 月 17 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
44	日記第 13 冊	元治元年 (1864) 11 月 8 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
45	日記第 24 冊	元治 2 年 (1865) 正月 29 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
46	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 173	(元治元年 (1864)) 12 月 4 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
47	日記第 18 冊	元治元年 (1864) 12 月 12 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
48	日記第 21 冊	元治元年 (1864) 12 月 23 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
49	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 37	(元治元年 (1864)) 12 月 29 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
50	日記第 16 冊	元治元年 (1864) 11 月 21 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ

松平造酒助江戸在勤日記は日記と略し、写真パネルはパと略しています。
2 月 18 日 (土) ～ 3 月 12 日 (日) 後期 3 月 15 日 (水) ～ 4 月 9 日 (日)

NO.	資料名称	年代	所蔵	資料点数	
				前期	後期
51	日記第 35 冊	慶応元年 (1865) 4 月晦日	神奈川県立歴史博物館	1	1
52	日記第 44 冊	慶応元年 (1865) 6 月 21 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
53	日記第 45 冊	慶応元年 (1865) 7 月 3 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
54	ゲベール銃		日野市	1	1
55	ゲベール銃 銃弾		日野市	6	6
56	ミニエー銃		日野市	1	1
57	ミニエー銃 銃弾		日野市	1	1
58	洋式銃胴丸		神奈川県立歴史博物館	1	1
59	日記第 13 冊	元治元年 (1864) 11 月 9 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
60	日記第 21 冊	元治 2 年 (1865) 正月 6 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
61	編年私記 六	慶応元年 (1865) 閏 5 月 13 日	鶴岡市郷土資料館	バ	バ
62	日記第 2 冊	元治元年 (1864) 8 月晦日	神奈川県立歴史博物館	1	1
63	日記第 3 冊	元治元年 (1864) 9 月 6 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
64	日記第 31 冊	慶応元年 (1865) 4 月 8 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
65	日記第 33 冊	慶応元年 (1865) 4 月 15 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
66	日記第 43 冊	慶応元年 (1865) 6 月 8 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
67	日記第 47 冊	慶応元年 (1865) 7 月 16 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
68	日記第 21 冊	元治 2 年 (1865) 正月	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
69	日記第 44 冊	慶応元年 (1865) 6 月 19 日	神奈川県立歴史博物館	1	バ
70	日記第 44 冊	慶応元年 (1865) 6 月 19 日	神奈川県立歴史博物館	バ	1
71	日記第 27 冊	元治 2 年 (1865) 3 月 2 日	神奈川県立歴史博物館	1	バ
72	日記第 27 冊	元治 2 年 (1865) 3 月 2 日	神奈川県立歴史博物館	バ	1
73	日記第 27 冊	元治 2 年 (1865) 3 月 2 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
74	日記第 28 冊	元治 2 年 (1865) 3 月 14 日	神奈川県立歴史博物館	1	バ
75	日記第 28 冊	元治 2 年 (1865) 3 月 14 日	神奈川県立歴史博物館	バ	1
76	日記第 28 冊	元治 2 年 (1865) 3 月 14 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
77	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 206	(元治 2 年 (1865)) 3 月 12 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
78	日記第 8 冊	元治元年 (1864) 10 月 5 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
79	日記第 23 冊	元治 2 年 (1865) 正月 23 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
80	日記第 37 冊	慶応元年 (1865) 5 月 16 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
81	日記第 12 冊	元治元年 (1864) 10 月 27 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
82	日記第 19 冊	元治元年 (1864) 12 月 3 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
83	日記第 48 冊	慶応元年 (1865) 7 月 26 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
84	日記第 27 冊	元治 2 年 (1865) 3 月 6 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
85	日記第 21 冊	元治元年 (1864) 12 月 29 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
86	日記第 21 冊	元治 2 年 (1865) 正月 1 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
87	日記第 10 冊	元治元年 (1864) 10 月 15 日	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
88	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 103	(慶応元年 (1865)) 閏 5 月 19 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
89	日記第 30 冊	慶応元年 (1865) 4 月 25 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
90	日記第 45 冊	慶応元年 (1865) 7 月 7 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
91	松平造酒助書簡 松 平武右衛門文書 19	(慶応元年 (1865)) 9 月 7 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
92	編年私記 六	慶応元年 (1865) 11 月 19 日	鶴岡市郷土資料館	バ	バ
93	間書雑書	慶応 3 年 (1867) 9 月 18 日	鶴岡市郷土資料館	1	1
94	近世史略薩州屋敷焼 撃之図 豊洲国輝画	明治 24 年 (1891)	神奈川県立歴史博物館	バ	バ
95	松平造酒助墓			バ	バ
96	石城日記	文久元年 (1861) 6 月 15 日～ 2 年 4 月 29 日	慶應義塾大学文学部古 文書室	バ	バ
97	酒井伴四郎日記	万延元年 (1860) 5 月 11 日～ 11 月 30 日	江戸東京博物館	バ	バ
98	東役飛翰	元治元年 (1864) 正月 1 日～ 4 月 27 日	立正大学図書館古文書 資料館	バ	バ
99	日記第 38 冊	慶応元年 (1865) 閏 5 月 1 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
100	日記第 49 冊	慶応元年 (1865) 7 月 29 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
101	日記第 11 冊	元治元年 (1864) 10 月 21 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
102	日記第 16 冊	元治元年 (1864) 11 月 18 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
103	日記第 50 冊	慶応元年 (1865) 8 月 5 日	神奈川県立歴史博物館	1	1
104	日記第 34 冊	慶応元年 (1865) 4 月 25 日	神奈川県立歴史博物館	1	1